

今日のキーワード 「FOMC議事録」と金融政策(米国)

「米連邦公開市場委員会(FOMC)議事録」は、FOMCから3週間後に公表されます。FOMC終了直後に公表される声明文で景気や物価、金融政策に関する判断が明らかにされますが、議事録はその判断に至るまでの議論が記録され、より詳細な情報を得ることができます。6月16日～17日に開催されたFOMCについて、7月8日に議事録が公表されました。

ポイント1 金融緩和解除の条件は整っていない 経済動向をさらに見守る必要

- 「FOMC議事録」によれば、大半の参加者が、利上げの条件はまだ整っておらず、経済成長や労働市場の状況をさらに見守る必要があると判断しました。
- 景気は金融緩和解除に向けて着実に前進しているものの、国内では個人消費、海外ではギリシャや中国に下振れリスクがあることを理由として挙げています。

ポイント2 経済見通しに対する確信が持てない ギリシャ、中国など海外経済にリスク

- 6月のFOMC後に発表された参加者の政策金利見通しでは、2015年の予想が下方修正されました。このためハト派(利上げ慎重派)色が濃くなったと捉えられ、市場では利上げの時期が後ずれするのではないかとの見方が強まりました。
- 実際、「FOMC議事録」の内容は、国内では消費者のスタンスが慎重なこと、海外ではギリシャや中国経済の見通しが不透明なことなどから、参加者の多くが、景気の先行きに対して自信を持っていないことを示すものでした。

【FOMC参加者の経済見通し(6月)】

(単位: %)

	2015年	2016年
GDP	1.8～2.0	2.4～2.7
失業率	5.2～5.3	4.9～5.1
個人消費支出デフレーター	0.6～0.8	1.6～1.9

(注1) 失業率以外は10-12月期の前年同期比。

(注2) FRBメンバーと地区連銀総裁の予想から上下3つを除く中心レンジ。

(注3) 個人消費支出(Personal Consumption Expenditure)デフレーターの上昇率は物価上昇率を示す。

(出所) 米連邦準備制度理事会(FRB)のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



今後の展開 雇用、物価関連の経済指標に加え、ギリシャ情勢や中国市場に注目

■年内利上げの可能性は引き続き高い

6月のFOMC後に発表された景気指標の多くは、米国経済の順調な拡大を示すものでした。景気・物価面から判断すると、やはり今年後半に利上げが実施される可能性は高いといえそうです。

■景気指標や海外情勢に左右される展開

一方、ギリシャ問題や中国市場も、その成り行き次第では、米国経済に影響を及ぼす可能性があります。金融市場は雇用、物価に加え、ギリシャや中国などの情勢にも左右される展開がしばらく続きそうです。

ここも チェック!

2015年07月08日 米国のISM景況感指数(2015年6月)
2015年07月03日 米国の雇用統計(2015年6月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。